



TITLE:

玉島通信

AUTHOR(S):

CITATION:

玉島通信. 天界 1930, 11(116): 79-80

ISSUE DATE:

1930-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161593>

RIGHT:

玉 島 通 信

山本先生 繪葉書の御たよりありがとうございました。今曉は二時半から起きて、東天に流星及び黄道光を觀測しました。Hydra 星座に徑路の短いそして非常に速い流星が澤山とんで、捕へにくいので困りました。黄道光は、その明るさが9月下旬の時より多少弱くなつてゐました。

廣島の長谷君は、小楨課長も感心せられる程の鋭眼の持主です。倉敷の會合以來親密になりまして、最近は一時間30個以上の微光流星の觀測を報ぜられてゐます。

福岡の田中氏は、氏一流の流星觀測の上に、黄道光及び對日照にまで進まれ、最近 Sketch を拜見しまして、大都市の人工光と戦ひながらの立派な御成績に驚いてゐます。

黄道光觀測の山陰、四國の兩雄である濱田の佐藤、新居濱の河端兩氏は休んで居られますが、小郡の新進山田君が、流星と黄道光とにつとめられる筈で、目下種々打合せ中です。

廣島の大橋君から、倉敷天文臺小川留守臺長御撮影の月の寫眞が参りましたし、福山の廣井君は相變らず太陽寫眞に御精勵です。この二人は倉敷の講習で知合ひになりました。

倉敷天文臺の佐々木先生に流星觀測用紙を謄寫版でつくつていただき、先日熱心な觀測家にわかちました。

臼杵の黄道光觀測家龜井氏からは、例によつて度々痛快な御狀が参ります私も負けずに書いてゐます。

大分の流星觀測家原田君から 臼杵訪問記が参りましたのは九月下旬でした。その中に花山生活について書かれてあります。同君に無斷で相すまぬわけですが、下に轉載しませう――

……花山では主に彗星搜索をしました。私があまり彗星の發見のことばかり言ふもんですから、鹽見君や西さんから「コメット原田¹」といふ nick name をもらひました。Comet の Seeking は大體二時からで、又夕方も時々やりましたが、つひに發見は出来ませんでした。まだ外國から

Comet が発見されたといふ知らせが京都へ来ない様子ですから、Comet はなかつたのでしやう。もし外國で八月中に発見されてゐたら、私は山本先生や、鹽見君や、西さんに合はす顔がないのですが——

又、花山で、中村さんの下で五吋(いや 13cm. 一寸注意しますが、先生の前では時をつかつてはいけません。cm. を使ふべしです、これも花山で食事の時に話の種となつた事です)の反射鏡を磨きました。整形は中村さんがしてくれました。これが私にとつては大いなる收穫の一つでした。

花山は實にすゞしく、志願助手が行つたのは避暑に行つた様なものでした。30cm. の望遠鏡で、一年にこんな seeking の良い日は三四日しかないといふ様な夜に、土星を見せてもらひました。何とも言へません!

46cm. の先生の反射鏡は私の居る内にやつと組立てたのです。以前は極軸がうまく動かなかつたさうです。中村さんの設計でよくなつたのです。これで土星を見るのが 30cm. よりはなほ美しい事をきゝましたが、土星を見ずに歸りました。残念です。……………

原田君の訪問を受けた龜井氏からは、

…………さて、昨日は珍しい方、大分の觀測家原田君の訪問を受けました。お互に初對面の間柄でも、天文談に花を咲かして、宛然舊知の親友です。これだから天文學は有難い…………

の一文が同じやうに来てゐます。

廣島電信隊の稻葉黃道光課長へはしばらく御無沙汰してゐます。倉敷で、流星論位しやべつてみたい氣がします。

こんな風で、私のところは、さながら「天文同好會西部出張所」の感がありますが、差當り私を所長殿! とひやかすのは、島根の淺野君です。

黃道光星圖がなくなりかけましたから、此度は少し上手に印刷するつもりです。

1930年10月

岡山縣玉島町八幡 荒 木 健 兒

御 注 意

小生への郵便物は下記の如く書いて下さる方が迅速です。

京 都 市 東 一 條 山 本 一 清